

◆鳥取県西部中小企業青年中央会 会長 三輪龍介 ◆編集責任者/担当 副会長 高塚康治 ◆制作・編集 第43期総務・広報委員会/委員長 木嶋康之

経済学で運動会?! 11月“運動会”例会開催!!

～優勝おめでとう! 政治行政委員会～

11月16日(木) 米子産業体育館メインアリーナにて人財・組織活性委員会担当の11月例会が開催された。



冒頭、三輪会長より、先月長野県にて開催された中小企業団体中央会全国大会でのエピソードが述べられ、「仲間と過ごす時間の大切さを改めて知る事ができた」「事業に参加をする事で自身の気持ちの高揚感や、一歩踏み出す勇気など得られることが多くある」と挨拶された。

続いて委員長タイムでは、生産性向上委員会西田委員長より「～ガスについて～」をテーマに、酸素・窒素・アルゴンの製造方法(深冷分離法)などの専門的な話のほか、小道具を使った液体窒素の実演があり会員の知識向上へと繋がった。



そしていよいよ11月例会、経済学を学ぶ「大人の本気の運動会」がスタートした。まず永井委員長が、経済学の観点から企業運動会の注目の高さを説明した。そして運動会を通じて得られる集団行動の中のリーダーシップ、勝利に向けたチームワーク、意識の高いリーダーや周囲の熱心な参加者から良い影響を受ける事で、チームへの貢献に前向きになる効果など

を学び、会員企業の組織活性化へと繋がって頂きたいと趣旨説明がされた。委員長長



全員による力強い選手宣誓のあと委員会ごとに青・緑・白・赤・黄色の5チームに分かれて整列した会員はB型体操・ラジオ体操にて体を温め、怪我のないように万全の状態での臨んだ。

第一種目「大縄跳び」では日頃の運動不足の影響もあり、苦しみながら縄を飛ば



会員が多く見られた。第二種目「綱引き」では女性会員が人数から控除される特権を利用して女装で参加する会員もおり会場を盛り上げた。第三種目「2人3脚問題早解き競争」では理系を得意とする会員が問題を早く解くことで有利にレースを進めたが、熱心な応援を間近で受けて普段の力が発揮できない会員も見受けられた。第四種目「中央会〇×クイズ」では大逆転を狙い、全員で同じ答えを選択するチームがあったが見事に粉碎していた。第五種目「宅配便リレー」ではダンボールを運びリレーだったが、別なものをリレーする委員会があり、それが仇となり最下位となった。最終種目「委員会対抗リレー」では最終種目という事もあり皆全力を出して優勝を狙って走り大いに盛り上がった。また、各チームの応援も評価対象となる為、委員会ごとに工夫を凝らした応援合戦も行われた。



閉会式では担当の松井副会長より、会社の運動会を通じて自己変革した若者の事例を話され、本日の経験を組織の活性化に繋げて頂きたいと総括された。笑いあり、涙あり、冷汗ありの例会はこうして向寒の中、幕を閉じた。(優勝の栄冠は橋本委員長率いる政治行政委員会)



(記事: 権田)

11月例会を終えて

人財・組織活性委員会 永井拓末 委員長
(株クラム 営業部長)



11月例会では多くの会員の皆さまにご出席頂きありがとうございました。組織活性化の一手段として、運動会を行いました。懸念していた怪我もなく例会、懇親会ともに大成功だったと思います。多くの会員に楽しかった、良い例会だったと言ってもらえました。表彰式を兼ねた懇親会にも大勢の参加があり、熱気漂う一日になりました。

競技に真剣に取り組む会員、その会員を応援しアドバイスを送る会員、そしてチームで円陣を組み士気を高める姿、勝利という共通の目的に一致団結して戦う姿勢は企業に置き換えても目指すべき姿だったのではないのでしょうか。

一生懸命頑張っている仲間の姿を見ると自然と応援したくなりました。そして自然と会員同士が集まり、会話が生まれ、笑いが生まれ、作戦を話し合い、肩を組みました。会員全員が自己のベストを尽くし、一人ひとりが互いを認め合い、それぞれの立場で勝利へ貢献しました。そんな姿を見ることができて本当にうれしかったです。

思い描いていた姿を見ることができたのは、例会企画の時から非常に前向きに支えてくれた委員会のメンバー、そして能動的に行動していただいた全会員のおかげです。心から感謝申し上げます。

鳥取県中小企業青年中央会 平成29年度 親睦・視察事業

11月18日(土)、倉吉の新日本海新聞社中部本社にて鳥取県中小企業青年中央会の親睦・視察事業が開催された。本年度の事業は鳥取県中部地区を代表する企業の経営者である株式会社チュウブの大田英二会長と株式会社バルコスの山本敬社長をお招きし、二部構成でそれぞれ「芝で道をひらく」、「地方から世界へ」という演題でご講演頂いた後、バスで移動して二つの



会社の企業視察を行うという盛沢山の内容だった。第一部講演では大田会長から会社の歴史と実績や経営に関するこ

と、取り扱っている芝の種類のこと、興味深い話としては東京では鳥取県に本社を構えていると通りが悪いことなど様々なお話を頂いた。

続いて、第二部講演では山本社長から何故バッグの会社を立ち上げたのか意外なその理由や生産体制・販売戦略に関する内容、アニメなどの日本的な文化をヒントにバッグを開発されたことなど、いずれも大変参考になるお話を頂いた。企業視察では、両社の社員の方々に丁寧に对应して頂き、チュウブではより詳しい商品知識や



鳥取県産の芝はとて品質が良く全国のメジャーなスポーツ施設で多く使用されていることなどを説明頂いたり、バルコスでは普段聞くことのないデザイナーの方の苦勞されたエピソードを聞くこともできた。二社とも鳥取県から全国、或いは世界で活躍している企業ということもあり、非常に有意義な事業となった。

(記事: 濱田 修)



平成29年度 中海圏域青年経済団体交流事業

生産性向上委員会 副委員長 武田 希
(株式会社 スベック 営業グループ 副部長)

11月22日(水) 旬門米子本店にて平成29年度中海圏域青年経済団体交流事業が開催された。松江YEGからは矢田会長をはじめ15名、安来YEGからは田辺会長をはじめとする6名の皆様にご参加頂き、当会からは20名が出席する中、3団体による交流事業が盛大に開催された。

交流事業ではA～Dの4チームに分かれ、各団体が持ち寄った地元のおすすめ食材を選び、それぞれ特色ある鍋を団体の垣根を越えた協力のもと作り上げ、第1回「中海圏域鍋コンテスト」が行われた。3名の会長による審査の結果、冬の味覚の王様「ズワイガニ」を手に入れたAチームが優勝した。

その他変わり種として「羊羹」「どじょう」「団子」「いちご」「梨」など地域の特色ある食材が並び、各テーブルがここでしか味わえない鍋を思う存分味わった。

普段は交流の場が少ない他団体の皆様と一つの鍋をつつき合い、語り合うことで懇親は深まり、今後の活動に向けての活力となった。

最後に、遠方よりお集まり頂きました松江YEG、安来YEGの皆様へ感謝申し上げます。



委員会訪問 ～生産性向上委員会～

11月9日(木)、旬門米子本店にて開催された第5回生産性向上委員会に訪問いたしました。

冒頭に西田委員長から10月の担当例会を終えた委員会メンバーに感謝の言葉を伝えて委員会は始まりました。そして役員会報告、10月担当例会の振り返りと反省を行い、今回の例会をもとに3月の担当例会をより良い事業にしたいという意気込みを多くの会員から感じました。

担当例会が終わったばかりですが、11月22日(水)に旬門米子本店にて開催される中海圏域青年経済団体交流事業の担当が生産性向上委員会です。事業の内容など委員長から説明があり、この事業について多く話し合いがなされ委員会は終了と

なりました。

そして移動時間無しでそのまま懇親会に入りました。時間を無駄にしない所がさすが生産性向上委員会です。

(記事: 渡邊)



12月例会に向けて



12月例会はセミオープン例会とし、西部地区の役所や各保育所の関係者、メディアや伝統芸能関係者の方々をお呼びし、当会の継続事業であるお地蔵さまプロジェクトを紹介・宣伝させていただく機会となりました。大山とお地蔵さまの魅力を発信し、我々が活動するこの事業を多くの方々を知っていただくことで、5月に開催する第3回大山お地蔵さまフェスティバルが多くの参加者でにぎわい、子供たちの清らかな心と笑顔であふれる大山寺参道となることを目的とします。

また第3部では、地域交流委員会が上期の間検討を重ねた第3回大山お地蔵さまフェスティバルの企画素案を説明させていただき、今後の準備活動につなげていきたいと思っております。是非ともご出席いただきますようお願いいたします。

地域交流委員会 堀尾一仁委員長

(株式会社 堀尾建築設計事務所 専務取締役)

LOVE
LOVE

中央会

～中央会をふりかえって～

田中真紀子 (セルトップ㈱ 代表取締役)



平成23年1月に入会させていただいてから、とうとう卒会する年を迎えることとなりました。長かったような短かったような…。とても充実した中央会生活を送ることができました。これもひとえに諸先輩方をはじめ、会員の皆さまのおかげだと思っています。

入会してからというもの、委員会や例会に参加するのがとても楽しみでした。異業種の方たちと色々な議論をし、時には悩みを話し、切磋琢磨しながら今日まで学ばせていただきました。また、学んだ後の懇親会も楽しみの一つでした。普段の顔からは想像もできないことを話す人もいれば、真面目に会社経営について話す人。いろいろな人がいるからこそ毎回参加しても楽しいのです。

大げさに聞こえるかもしれませんが、私の人生において中央会は沢山の大切なもの、大切なことを与えてくれました。沢山の必要な経験、沢山の大切な先輩、仲間などです。お金では買えないかけがえのないもの、「ご縁」をいただきました。沢山の人たちに会える中央会。中央会に入会できて本当に幸せです。これからもこの「ご縁」を大切に社業に励んで参ります。

卒会まであともう少し、最後までどうぞよろしくお願い致します。

第10回けやき通り祭り 人財・組織活性委員会出店

堀尾 裕之 副委員長 (米子信用金庫 総合企画部 総合企画課長)

人財・組織活性委員会の堀尾です。このたび当委員会メンバーで、屋台出店という形でけやき通り祭りに参加してきました。

当日は風が強く、雨も混じる肌寒い天気でしたが、多くの来場者があり、綿菓子には多くの子ども達が並んでくれました。風の吹く中、割り箸に巻き付ける作業は思いのほか難しかったのですが、福本会員、新井会員などの業師たちはフワフワな綿菓子を作り上げていました。さすがです。



夜になるとキャンドルライトが灯り、来場者が増えてくる中、冷え込みも増してきました。そんな中、浜田監事の響き渡る声掛けのおかげにより温かいピザにも行列が。格好良かったです。結果、用意した商品の大半を買っていただけました。

最後に、屋台にお越しいただいた多くの会員の皆さま、OBの皆さま、ありがとうございました。そして準備段階を始め、当日も仕事などある中、朝の立ち上げから夜の撤収まで協力していただいた委員会メンバーの皆さん、ありがとうございました。そして大変お疲れさまでした！

第24回中海テレビ放送杯 野球大会第2回戦

11月5日(日)、雲ひとつない快晴の中、中央会野球部は中海テレビ放送杯野球大会2回戦に出場しました。対戦相手は「強心忍会」という24歳の同級生で組織された若さあふれるチームです。先攻は中央会野球部。相手の先発投手は130kmを超える球速で初回から全員三振という結果になり、回が進んでもなお相手投手を攻略出来ずに0対6という状況で最終回の7回表を迎えました。相手に一矢報いようとチーム一丸となったなか、高塚キャプテンが痛烈なレフト前ヒットを打ち、その後3塁まで進塁しました。そして相手のワイルドピッチによりホームに生還。その後7回表の中央会野球部の攻撃の途中で時間切れにより試合終了となり、残念ながら2回戦敗退となりました。



例会での2回戦出場の事前告知のおかげか三輪会長をはじめ会員やOBの方々も応援に駆けつけて頂き大きな力となりました。そして野球部新OBの皆様から横断幕とボールケースのプレゼントを贈呈して頂きました。ありがとうございました。今シーズンはこれで最後の試合となりましたが、今後ともご声援よろしくお願い致します。

(記事:渡邊)

Motto 教えて

竹谷 友成 (有竹谷保険事務所 専務取締役)

“中央会で学んだ地域の事と変化した飲食店選び”

自分はタバコもアルコールも口にしないのだが(健康オタクに間違われる事しばしば)、代わりによく食べる(笑)。それこそ、若い頃は量の食べられる全国チェーン系の店もよく行っていた。そんな不健康な食生活と嗜好が大幅に変わったのは、山陰に帰ってきてからの話。

元々学生時代の休みには、都度帰省していたのだが(羽田から1時間の、食材の産地に囲まれ、海・山・温泉を兼ね備えたりゾート地に行くような気分で)、社会人として住んでみると、全国チェーン系など行く気にならないほど、地元(米子周辺)資本の店が手頃で美味しい事に気づいたのだ。

そりゃ全国有数の良質な水に加え、100キロ圏に様々な農水畜産のブランド食材の産地があって、新鮮なモノが手に入るのだから、何作ったって一定旨いのは当たり前である☆

西日本なので関西食文化圏ではあるが、出雲や広島食文化も混じり、さらには関東との人的交流により関東系の食文化も加わっているせいか、味付け等でもバラエティも豊か。ただ中華系は少ないが。

また、当中央会に入る頃になって地域内経済の事なども知ってくると、さらに地元系の店ばかり行くようになった。山陰や米子にお金が残る消費はどちらか？を考えると自明の理である。それはコストが良く美味しいモノが食べられるのでむしろ行かなきゃソンだったから。

そうして行くようになった美味しい店やその関係者等の皆が教えてくれる情報は、話題作りや自分のネットワーク作りの上で、公私を問わず大いに役立っている。一粒で何度も美味しさを味わえているのは、ありがたい事である。

いまや国際定期便が飛来し、クルーズ船や瑞風まで来るようになった大好きな米子周辺だが、自分は「日本のサンセバスチャン」になりうるポテンシャルを持つエリアだと確信している。関係各位には「日本のサンセバスチャン」としてのブランディングを検討してもらいたいと本気で思っている。

響け中央会

第43期会長 三輪龍介

会長連載4回目になりますが、今回は自分にとってのささやかなこだわり・自己研鑽的なことに触れたいと思います。

社会人になって20年が過ぎましたが、私が自分に課してきた数少ない決め事の一つは、いくら遅くまで飲んでも、それを理由に翌日の遅刻や欠勤はしないという事です。たとえ日中ボーッとして仕事にならなくても、朝礼だけは顔を出すことを守り続けています。社会人駆け出しだった前職の時の先輩・上司の方の影響もあったと思いますが、特に立場が上の人ほど、わずかな時間でもいいから会社に顔を出し、社員の顔を見るということは「ささやかだけれどいつか役に立つこと」の一つではないかと考えています。「大事の前の小事」という諺もありますから。

中央会交響曲

副会長 山口 尚文

私の人生に影響を与えたことはハンドボールです！振り返って真っ先に思い浮かぶことは、「好き」で始めたことでもその気持ちを持ち続けることの難しさと大切さです。厳しい環境は簡単に「好き」を見失わせ、まるで「嫌い」になったように錯覚させます。それは自分の弱さを認めないための誤魔化しに過ぎないと気付いたのは、社会人になってハンドボールと離れてからでした。「好き」を持ち続けたらもっと楽しかったのだろうなあと今となって感じます。残念…。

そして現在は、「好き」を持ち続けることの大切さを伝えられたらという思いで、小学生の指導者としてハンドボールに関わっています。

上期の雄飛・ハンサム作成をふりかえって

みなさんこんにちは。総務・広報委員会副委員長の渡邊です。早いもので7月に始まった43期の上期も12月で終え、1月には新たな年と共に下期を迎えます。うだるような暑さの中、7月のトリアスロン皆生大会、担当の総会・懇親会、その他の事業ある中、広報担当の副委員長として「雄飛」の発行が無事に出来るか不安な思いを抱きつつスタートしました。

そして休む間もなく「ハンサム」発行に向けて準備にとりかかりました。三輪会長の掲げたスローガン「響」や木嶋委員長の「MOTTO」というテーマを核とした想いや発案で企画した内容で皆様にご協力頂きながら委員会メンバー一同で作成しております。

上期をふりかえって「雄飛」・「ハンサム」に携われて良かった事は、会員やOBの方々のそれぞれ普段聞いたこと無い話や、想いを「雄飛」・「ハンサム」という媒体で届けられた事です。

最後になりますが、紙面の作成をして頂いている東京印刷株式会社の木下さん、完成した広報誌を郵送して頂いている事務局の岡島さん、そして「雄飛」・「ハンサム」をご愛読頂いております皆様に心より感謝申し上げます。

(記事:渡邊)

12月役員会報告

平成29年12月1日(金)米子市公会堂集会室7にて開催されました。

当日の主な内容は以下のとおりです。

- ・11月例会報告の件
- ・12月例会開催の件
- ・1月新年例会開催の件

詳細については各委員長にご確認下さい。

12月例会案内

と き:平成29年12月15日(金) 19:00~21:00

と ころ:米子市文化ホール イベントホール

内 容:第1部 大山とお地蔵さまの魅力

講師 大山寺圓流院住職 大館 宏雄氏

第2部 お地蔵さまプロジェクトおよび

大山お地蔵さまフェスティバルの紹介

第3部 第3回大山お地蔵さまフェスティバル素案説明

担 当:第43期 地域交流委員会

編集後記

11月例会の写真を担当しました。運動会で盛り上がる中、少しでも良い写真を撮ろうと動き回っていたら、なんと900枚も撮っていたようです。その中で今月のハンサムに使われるのはわずか数枚・・・選び抜かれた珠玉の写真をご覧ください！

(広報委員会 戸田 博之)



燃えよ龍

我が社の経営力

高下 寛人

(株エッグ)

第43期地域交流委員会の高下寛人です。弊社は、昭和24年に米子市角盤町にて創業し、主に印刷業を営んでおりましたが、平成7年度よりホームページ作成やシステムの開発を開始。徐々に印刷業からシステムの開発会社に移行してきました。

平成12年に全国で初めてインターネットからハガキが送れるサービス「ボスコミ」を自社で開発し、運営。

平成25年に鳥取県庁が「ふるさと納税」の寄付金額が日本一になりました。その時に弊社システムを導入頂いたことで全国に広がり、現在では550を超える自治体で利用され、納税管理システムでは日本一の販売数とシェアになりました。これをきっかけに印刷業からシステム開発会社に完全移行しました。

現在はヘルスケア関連商品の開発にも力を入れ、高齢者の身体機能・精神状況・意欲・家族の介護能力などを総合的に判断するシステムを開発し、まもなく全国販売します。

株式会社エッグは、ICTを活用して地域とシニアを元気にします。



お誕生おめでとう

古木 一琉くん

(古木竜平会員 第2子)

平成29年9月3日生まれ

地域交流委員会の古木です。平成29年9月26日に古木家第2子となる男の子が誕生しました。

名前は一琉(いちる)といいます。誰よりも一番努力し、宝石のように一番輝いてほしいと言う意味をこめ命名致しました。いつも白目で眠っていますが、パパに似てイケメンの一琉君です。今後とも親子共々宜しく願い致します。

